

限りある資源を大切に

沖縄県 伊是名中学校 三年 東江 千晶

私は小学校六年生のとき、伊是名村水道用水供給開始記念式典に児童会代表として参加させてもらった。

沖縄県の本島周辺の離島八村は、簡易水道のため、水質の悪さや渇水による制限給水、水道料金が沖縄本島と比べて高いなどの問題が多くあり、沖縄本島と離島との水道サービス格差と言われている、質・量・料金などが課題となっていた。これらの課題を解決するために、水道広域化施設の整備事業が行われ、私の住む伊是名村にも沖縄県企業局伊是名浄水場という施設ができ、令和四年八月十七日から水道水の供給が開始された。

供給開始記念式典の前日に、完成した施設内を一足先に見学させてもらった。施設内には、大型の機械が入っている部屋がたくさんあり、施設の方から、「これらの機械でミズをつくっているんです。」と教えていただいた。さらに、この施設では海水から真水をつくることもできると聞き、とても驚いた。

見学を続けていると、小さな魚が入った水槽を見つけた。水道施設になぜ魚がいるのだろう。ペットとして飼っているのだろうか。疑問に思った私は、施設の方に、なぜここに魚がいるのか聞いてみた。すると、この水槽に入っている水は、この施設でつくられているもので、毎日魚の状態を観察することで施設でつくられた水の水質に異常がないかどうかを確かめていると教えてくれた。私たちに安全な水が届けられているのは、毎日水質チェックを行ってくれているおかげなのだと思えることができた。

施設見学を終えて私は、これからは雨が降らず、水不足になっても、この施設で水が作られるため、断水などの心配がなくなるのだろうと思った。

しかし現在、伊是名村では水道管老朽化による断水が起きてしまっている。雨の日も多いため、ダムの貯水に関する問題はないが、水道管が古くなっており、漏水が起きているため、各家庭に水が届かず断水してしまっている。学校の給食センターがある地域も、断水が起きてしまい、数日学校給食がとまってしまうこともあった。給食がとまったことにより、午後の授業が受けられず、うれしさ半分、授業が遅れてしまうことへの不安も半分あった。この経験により水道管老朽化問題について、身近に考えるようになった。

この水道管老朽化問題が、日本の深刻な社会問題となっており、テレビで道路陥没事故のニュースを見たときは、とても衝撃を受けた。

これは現在、日本で使用されている水道管の多くが、昭和三十年から昭和四十七年ごろの高度成長期につくられたものであり、耐用年数を大幅に越えて使用され続けているため水道管老朽化による漏水が多発してしまっているのだ。

水は普段から当たり前に使っているからこそ、なくならない資源だと思っていた。しかし、様々な理由で、私たちが普段使っている水がなくなってしまうかもしれない。

そうならないよう日本では老朽化した水道管の漏水が発生する前にこの技術による道路上からの水道管調査や、地震の揺れに耐えられる水道管補修材の開発も行われている。

しかし、最新技術だけに頼っていては、機械が停止してしまった場合、対策することができない。そのとき、私たちにできることは少ないかもしれないが、普段の生活で水を使用する際は常に節水を心掛け、小さなことから少しずつ取り組んでいきたい。

普段当たり前に使っている水だからこそ、限りある資源を大切にし、未来に残していくための行動をしていきたいと私は思う。